

# 資料 1

## 平成 27 年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第 1 回）【概要】（案）

日時：平成 27 年 7 月 31 日（金）午前 10 時から正午まで  
場所：千葉市ビジネス支援センター 会議室 3（きぼーる 13 階）

### 1 出席委員（敬称略・名簿順）

鈴木幸子，吉開潔，大森英一，古川聖也，宇野輝夫，友杉修三，雑賀ますみ，高橋英雄，佐久間勝彦，町田義昭（委員長），東條三枝子（副委員長），湯井隆子，鳥井みゆき，小林公人

### 2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 委員紹介

(4) 委員長・副委員長選出

(5) 報告

①平成 27 年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果について

②平成 27 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における中学校及び高等学校からの意見について

③平成 27 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について

④平成 27 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

⑤平成 28 年度千葉県公立高等学校第 1 学年入学者選抜要項について

⑥平成 28 年度千葉県公立高等学校「前期選抜」，「後期選抜」等の検査の内容・出題方針について

⑦その他

(6) 協議

①平成 28 年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

②平成 29 年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③その他

(7) 閉会のことば

### 3 協議内容

①平成 28 年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

・平成 27 年 3 月に実施した受検動向調査の結果をもとに協議を行った。

・後期の学校を前期と変えることによっていい結果を得たものはどれくらいになるのか。実際には後期は変えたけども，前期の枠が広ければ後期変える必要がなかったという者を推計してもらいたい。

・上記のことが 2 回機会を確保することの客観的な判断材料になる，この調査をする意味ではないか。

・この結果から現行通り前期後期 2 回やった方がいいという根拠は出せない。ただ今まで見えなかったのが見えてきた。

・最終的には入試が終わった段階で，2 回受けて合格した者にとって 2 回前期後期の入試があった方がいいかと思ったと思っているのか，それとも 1 回だけでいいと考えるのか，2 回受けて不合格だった者が 2 回あった方がいいかと思っているのか，そこまで踏み込む必要がある。

・中学生にとってどのような入試制度が望ましいのかというのを大局的に判断する，そういう場だと思う。複数回が必要なのか，1 回の方がいいと考えるのかというのがポイントである。

・動向調査の結果の中で特に特徴的な傾向を示す数値を教えてください。

・今年度専門学科が 100% で前期をやると，今後の方向性を見極める上で非常に大きな示唆となる数値が出てくると思う。それを加味した調査を是非していただくとよりわかりやすいと思う。

・高校側の意見としても一本化を望む意見が多く出されている。

・単に学力検査だけで一本化ということになっては非常に困るので，きちんと子どもたちを多面的に見つつ，また基礎的な学力部分も総合的に判断しながら高校側はきちんとした選抜をやらなければならない。

・これまでは単に一本化がいいのか，二本化がいいのかという議論に傾きがちだったが，入試そのものをもう少し掘り下げてみるべきではないのかという話が出て，今年度高等学校長協会として公立高校と私立高校の県内の校長先生方にアンケート調査を行っている。次回の時にはアンケート結果も踏まえて，お話

しできると思うので、それも参考にさせていただきたい。

- ・一本化ということではなくて、前・後期があることによって、入試の時期がたいへん早まっている。私立高校は1月の半ばに試験をやっているのです、12月中に授業を終わらせなければならず、発展的な内容、活用するところをカットせざるを得ない。中学校の教育課程にたいへん大きな影響が出ている。

- ・子どもたちの学力をつけていくということについて、入試の時期というものが大きな影響がある。進路選択の機会ということは大切だが、同時に子どもたちが学ぶという機会を奪ってはいけない。そういう意味でも検討していただきたい。

- ・功罪は両方ともある。子どもたちが本当に希望した学校に行けるということが最良の入試だと思う。そのために1回でいいのか、2回でいいのか、あるいはもっと3月にやるのかとか、またさらに検討して次回以降の協議内容とさせていただきます。

## ②平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

- ・平成28年度の日程において、前期選抜の2日目が東京都、神奈川県私立高校の入試の解禁日と重なってしまった。本県からも東京、神奈川の私立を受ける生徒がかなりいるので、その点を考慮しなければいけない。平成29年度の日程については、案Aと案Bの二つをお示しする。

- ・前期後期の間を2日間取るというのは、中学校側からの要望が非常に強かったということで取った。それによって前に移す、前に移すと教育課程の運用上問題があるということもまたでてくる。

- ・東京都、神奈川県私立だけでなく、国立附属や高専の日程も参考までに教えてもらいたい。

- ・中学校側としては、基本的には選抜を後の方にずらしていただきたい。

- ・市川・浦安・東葛の地域については、相当数の生徒が東京私立を受験すると思う。A案は、千葉県の前期選抜の翌日から東京私立が始まるので、学校の方で生徒を指導する余裕がないと思う。A案はちょっと厳しいと考える。東京寄りの地域のことも考えると、よりB案の方が良いと考える。

- ・中学校長会としては、改善協をとおして、前期選抜の結果の発表から後期選抜の入学願書等の提出までの期間を2日とっていただき、たいへん配慮していただいて、非常に感謝している。

- ・今後中学校長会も常任理事会、理事会等があるので、それぞれの校長の意見を聞きながら進めていきたいと思う。とにかく子どもたちの受検に過度な負担がかからないようにという配慮も大事だと思う。

- ・A案は今年度より前に行くということで、中学校側からの教育課程運用上問題があるということが出ているので、中学校の方で十分検討いただきたい。B案だと逆に後ろに下がる。その時に29年度以降、30年度、31年度はどうかということまで考えながら案として検討する必要がある。

- ・この日程の案については、持ち帰り、各関係者で十分御協議いただいて、次回に再度、協議をする。

## ③その他について

- ・入学者選抜に直接関係するかどうかわからないが、現場では、調査書のミスという問題が大きく出ている。現場では膨大な時間と事務量をかけて点検をしているにもかかわらずこういったミスが起こっている。何か抜本的に変える方法が必要なのではないか、例えば、事前の開示という方法もあるのではという意見も出ているので、今後検討していただきたい。

- ・現場からはこの入試改善協で話し合われた内容が改革につながっているということで感謝の声もたくさん届いている。